



2学年の成長を見ました

大ホールに「COSMOS」が響きわたった、22日の合唱コンクール。中三川先生にコメントをお願いしました。



「昨年より成長した、私たちの歌声を聴いてください」
そんな曲紹介から始まった、2学年合唱「COSMOS」でした。
ステージに立つ姿からも、昨年とは違う大人びた雰囲気が漂っていました。
練習の段階から向上心に満ち、学年一体感ある「表現力」を追求して、本番を迎えました。

あなたたちの歌には「チカラ」があります。
歌詞に込められた思いや感情を、歌に乗せることができるチカラ、
音程が正しく、高い歌唱技術で周りの声や他パートと声を混ぜ合わせてハーモニーを生み出すチカラ、
みんなで合唱することの意味を、自らの歌う姿によって証明することができるチカラ、
そして、自分たちの成長を、合唱という形で示すことができるチカラ。

『夏の草原に 銀河は高く歌う』というmp（メゾピアノ）の歌い出しは、子音の発音に配慮した、静かな広がりを感じました。ピタッとそろったリズムも、大人数で歌っている雑味がなく、繊細さを損ないませんでしたね。

『ひかりの声が 空高く聞こえる』のf（フォルテ）部分は、その手前のクレッシェンドからワクワクするような盛り上がりをみせ、会場を一気に歌声でいっぱいにしてくれました。

最後に転調し、さらなる盛り上がり表現する『ひかりの声が』は、これまた絶品。力強さと、明るさと、若々しいエネルギーが、一気に爆発したような迫力に、圧倒されました。

『きみも星だよ みんな みんな』の消え入るような終末も、そーっと母音を消していくかのような心地よい余韻が、ずっと響いていました。

大成功です。

学年練習で、学級委員会の川井登矢さんが伝えた、「情熱×熱量で、完全燃焼」。

達成です。

歌を歌うという行為を、美しい音楽の追求はもちろんのこと、それ以上の何かがある、と教えられるような、素晴らしい合唱でした。みなさんの努力とその成果を、ここに認めます。

クラス合唱も、2学年のレベルの高さには驚きました。練習のときから、学習の内容は難易度の高いものでしたが、みなさんのよいところは、「できるまであきらめない」強さをもっているところです。課題が見つかったら、「どうしたら直るんだろう」「もう一回やってみよう」と、練習時間を無駄にしません。考えて、意見を言い合って、納得して、自分たちでどんどん歌に入り込んでいきます。

来年も楽しみ…なんていう理想を掲げるのは、早いかもしれませんが、今のあなたたちの歌には、今後のさらなる成長への希望や期待が止まりません。

クラス合唱も、それぞれの特徴が出ていて、とても魅力的でした。一生懸命準備をして臨んだだけに、表彰にこだわる姿も見られたようですが、「表彰と別の意味」について、みなさんに伝えるべく、今回は勝手ながら、各クラスのよさに「賞」を付けてみたいと思います。

＊1組「手紙～拝啓十五の君へ」 美しいハーモニーに思わず息が止まってしまった！で賞

歌い出しの「はいけい」の子音の柔らかさには、3年生も「ほーっ」と、感嘆の声をあげていました。同感。2年生の一番手ということもあり、まさに「成長した」2学年の成長を示すスタートを切ってくれました。正しい音程から生まれる心地よいハーモニーは「もっと聴いていたい」とじんわり染み入ってきました。有名な曲ですので何度も耳にしていますが、1組さんの歌う「手紙」が一番好きです。

＊2組「時を越えて」 歌う姿に涙が止まらなかった！で賞

前奏から曲想にのり、みんなで思いをひとつにしようとする姿に、涙が止まりませんでした。やろうと思ってできることではありません。この歌を愛しているから、みんなでステージを成功させようとする気概をもっているから、自然に気持ちが動くのです。集中するその感情が、指揮者の手でステージに放出されるような一体感は、一朝一夕で演出できるものではありません。心を揺さぶられました。

＊3組「心の瞳」 歌詞の温かさは、あなたたち自身の温かさだった！で賞

美しいピアノの前奏にのって、これまた美しい女声の歌い出し。さらに男声が女声とのバランスを考えそっと加わる…互いを意識していなければ、決してできないワザです。練習のときから、丁寧に音取りをしたり、何度もタブレットで録音して納得いく仕上がりを目指したり、その取り組みは「協力」なしには成し得ないものでしたね。「いつか若さをなくしても」の迫力は、会場の空気を変えましたね。



＊４組「YELL」 最優秀賞はめでたいとして、あの魅力的なテノールは誰の声？とい
まだに謎で賞

『かじかんだ 指さきで 夢をえがいた』のところ、女声と男声が追いかけるよ
うに絡み合う部分なのですが、みなさんは、気づいたでしょうか。あのテノールの
声の響きのレベルの高さに。おそらく、最優秀賞の決め手となったのは『さよなら
は 悲しい言葉じゃない』のソプラノ＆アルトのハーモニーと声の響きの美しさだ
ったのではないかと思います、それより、あの、テノール…誰？

＊５組「命あるかぎり」 上手すぎて言葉を失ってしまった！後輩はのけぞってい
た！で賞

５組の合唱は、まさに「歌物語」。繊細な歌い出しから、難しい合唱と伴奏の入
り、そして盛り上がりへ向かいました。曲の終末には、アゴーギグ（曲想に合わせて
テンポを揺らすなど工夫すること）を効かせ…って、これはもう、指揮者である
江森さんの優秀さと、そこに集中する合唱＆伴奏の一体感の成せることでした。歌
詞のもつ重みと持ち前の響きある歌声が見事に融合し、説得力ある合唱でした。

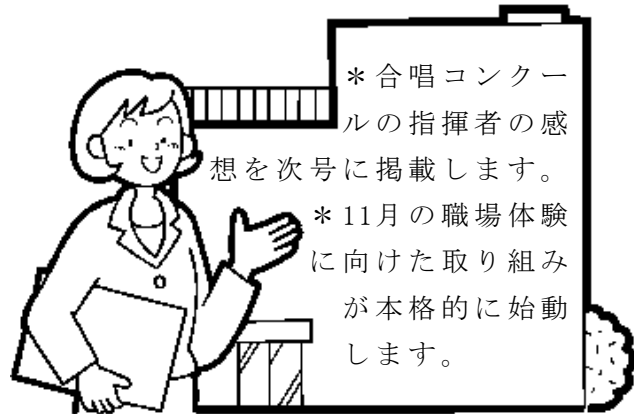
表彰にこだわるがあまり、SNSで「なんであのクラスが？」など、批判もあったと
います。

でも、思うのです。



きっと、本気で取り組み、本気でステージに立ち、歌い切った
人に、そんな批判は痛くもかゆくもありません。ましてや、本気
だった人は、他を批判することなど絶対にしないと思いますし。
「表彰とは別の意味」について、みなさん自身が努力と成果を照
らして、今年度の合唱コンクールを振り返り、素敵で美しい思
い出の一ページとしてくれることを心から願います。

そして、この経験を、どう自信に変えていくか、一緒に考えていく日が、これか
らも続きます。



＊合唱コンク
ールの指揮者の感
想を次号に掲載します。

＊11月の職場体験
に向けた取り組み
が本格的に始動
します。